2　3R推進自主行動計画2025の総括

各年毎の状況

2021年度	新計画の堅調なスタート	初年度、コロナ禍におけるライフスタイルの変化に対応しつつ、軽量化率は25.6%、リサイクル率は86.0%となり、ともに目標水準を達成しました。
2022年度	軽量化の進展と高いリサイクル率	「新型リサイクルボックス」導入など、飲料業界全体での回収精度向上の取り組みが活発化しました。
2023年度	軽量化率のピークと水平リサイクルの拡大	使用済みPETボトルを再度ボトルに再生する「ボトルtoボトル（水平リサイクル）」の割合が33.7%（前年29.0%）に増加し、質的なリサイクルの転換が進みました。
2024年度	販売量増加にともなう動静脈連携の強化	指定PETボトル販売本数が前年比6億本増の287億本に達し、軽量化率は28.1%、リサイクル率は85.3%を維持しています。
2025年度	計画の最終成果と次のステップへの移行	「プラスチック資源循環促進法」や「資源有効利用促進法」の改正と連動し、さらなる脱炭素・資源循環への土台が築かれました。

表1. 推進協議会の3R推進のための自主行動計画2025の実施実績（2021年度～2025年度）

項目	目標	達成状況
Reduce リデュース	指定PETボトル全体で25%以上の軽量化（2004年度比）	●2025年度のボトル重量調査を、推進協議会を構成する7団体に行った結果、2004年度に比べ主要サイズ・用途17種の全てで4～42%軽量化が進み、5種で目標を達成した。 削減効果量は、5年間累積で1,133千トン、全体での軽量化率は28.3%となった。 計画期間全てで軽量化率25%以上を達成した。 （P4 図2「容器軽量化による削減効果量と軽量化率の推移」参照） （参考）2020年度（第3次自主行動計画最終年）と2025年度の比較 軽量化率：　25.3%（2020年度）→ 28.3%（2025年度） 削減効果量：177千トン（2020年度）→ 241千トン（2025年度）
Recycle リサイクル	リサイクル率85%以上の維持	●2025年度リサイクル率87.4%、リサイクル率目標「85%以上の維持」を、計画期間全てで達成した。 （P6 図6「リサイクル率と国内・海外再資源化量の推移」参照）
	リサイクル容易性の向上	●キャップ、ラベルを外し、簡易洗浄して分別排出することをWebサイトや広報誌などで自治体ならびに消費者へ広く広報活動を行った。 ●自主設計ガイドラインに不適合なボトルの改善を輸入・販売会社へ要請した（5年間で延べ77社に改善要請し、24件の回答を得た）。
水平リサイクル	ボトルtoボトル比率50%（2030年度まで）	●2021年度ボトルtoボトル比率20.3%から、2025年度40.0%に19.7ポイント増加、再生PET樹脂利用量も2021年度118千トンから2025年度253千トンと135千トン増加した。 （P12 図13「ボトルtoボトルへの再生PET樹脂利用量とボトルtoボトル比率の推移」参照）
有効利用	有効利用率100%（2030年度まで）	●2021年度から有効利用率98%以上を維持した。 （P12 図14「有効利用率の算出（概略図）」参照）
環境配慮設計	自主設計ガイドラインの充実	●プラスチック資源循環法に基づき制定された「プラスチック使用製品設計指針（告示）」に従い、「PETボトルの環境配慮設計指針」を策定した。また、PET樹脂の再利用に関して懸念される助剤・添加材の使用の禁止について、自主設計ガイドラインの改訂を行った。